



バックアップと復元

- [設定のバックアップと復元](#) (1 ページ)
- [バックアップと復元に関するガイドライン](#) (1 ページ)
- [バックアップのリモート ロケーションの設定](#) (4 ページ)
- [バックアップのアップロード](#) (5 ページ)
- [バックアップの作成](#) (6 ページ)
- [バックアップの復元](#) (7 ページ)
- [バックアップのダウンロード](#) (8 ページ)
- [バックアップ スケジューラ](#) (9 ページ)

設定のバックアップと復元

Nexus Dashboard Orchestrator の障害またはクラスタの再起動からのリカバリを容易にする、Orchestrator 設定のバックアップを作成できます。Orchestrator の各アップグレードまたはダウングレードの前で、各設定の変更または展開後に、設定のバックアップを作成することを推奨します。バックアップは常に、Nexus Dashboard Orchestrator で定義されているリモート サーバ（Nexus Dashboard クラスタ以外）に作成されます。定義については、続くセクションで説明します。

バックアップと復元に関するガイドライン

設定のバックアップを保存および復元する際には、次のガイドラインが適用されます。

- より新しいリリースから作成されたバックアップのインポートおよび復元はサポートされていません。

たとえば、Nexus Dashboard Orchestrator を以前のリリースにダウングレードした場合、それ以降のリリースで作成された設定のバックアップを復元することはできません。

- リリース 3.2(1) より前のリリースで作成された設定バックアップの復元は、Nexus Dashboard へのクラスタ移行中のワンタイム ステップとしてサポートされます。

VMware ESX または Application Services Engine 展開で、Multi-Site Orchestrator リリースからバックアップしていた場合、その後の復元はサポートされていません。

- バックアップを保存すると、設定は展開されたのと同じ状態で保存されます。バックアップを復元すると、展開されたすべてのポリシーが展開済みとして表示されますが、展開されていなかったポリシーは未展開の状態のままになります。
- バックアップアクションを復元すると、Nexus Dashboard Orchestrator でのデータベースは復元されますが、各サイトのコントローラ (APIC、Cloud APIC、または DCNM など) データベースは変更されません。したがって、Nexus Dashboard Orchestrator と各サイトのコントローラ間のポリシーが食い違う可能性を避けるため、Nexus Dashboard Orchestrator データベースを復元した後は、既存のスキーマを再展開する必要があります。
- バックアップはリモート ロケーションで作成する必要があります。

リリース 3.4(1) よりも前のリリースでは、クラスタを最初に展開したとき、作成していたバックアップは、各ノードのローカルディスク上のデフォルトの場所に保存され、さらに Orchestrator クラスタ外のリモート ロケーションを設定して、そこにバックアップを再配置するオプションがありました。

リリース 3.4(1) 以降では、ローカルディスク オプションは廃止されたので、すべてのバックアップは Nexus ダッシュボードクラスタ外のリモート ロケーションに作成する必要があります。次のセクションの説明に従って、NDO GUI を使用してリモート SCP または SFTP ロケーションを設定し、そこにバックアップ ファイルをエクスポートできます。

リリース 3.3(1) 以前からリリース 3.4(1) 以降に初めてアップグレードする場合は、[古いローカル バックアップのダウンロードとインポート \(3 ページ\)](#) の説明に従って、以前に作成したローカルバックアップをダウンロードできます。その後、リモートロケーションを経由して、これらのバックアップを Nexus Dashboard Orchestrator に再インポートできます。



(注) ローカル バックアップは復元できません。

- 設定のバックアップを作成してリモートサーバにエクスポートするときには、ファイルは最初に Orchestrators ローカルドライブに作成され、その後リモートの場所にアップロードされ、最後にローカル ストレージから削除されます。十分なローカル ディスク領域がない場合、バックアップは失敗します。
- リリース 3.4(1) 以降にアップグレードする前に、ローカルバックアップを取得できるようバックアップスケジューラを有効にしていた場合、アップグレード後に無効になります。

バックアップ以降の設定変更はありません

バックアップが作成されてから復元されるまでの間にポリシーの変更がない場合は、追加の考慮事項は必要ありません。また、[バックアップの復元 \(7 ページ\)](#) の説明に従って設定を復元するだけです。

バックアップ以降に作成、変更、または削除されたサイト、オブジェクトまたはポリシー

設定のバックアップが作成されてから復元された時間までの間に設定変更が行われた場合は、次の点を考慮してください。

- バックアップを復元しても、サイトのオブジェクト、ポリシー設定は変更されません。バックアップ以降に作成および展開された新しいオブジェクトまたはポリシーは、展開されたままになります。古い設定を回避するには、バックアップを復元した後に手動でこれらを削除する必要があります。

または、すべてのポリシーを最初に展開解除することもできます。これにより、バックアップから設定が復元された後に、古いオブジェクトの潜在的な問題が回避されます。ただし、これにより、これらのポリシーによって定義されたトラフィックまたはサービスの中断が発生します。

- 設定のバックアップを復元するために必要な手順については、[バックアップの復元（7ページ）](#)で説明しています。
- 復元した設定バックアップが、サイトに展開される前に保存されたものであった場合、未展開状態で復元されるので、必要に応じてサイトに展開できます。
- 復元した設定バックアップが、設定がすでに展開されているときに保存されたものであった場合、サイトにどの設定もまだ存在していなかったとしても、展開済み状態で復元されます。この場合、設定を各サイトに適切にプッシュするには、それを再展開して、Nexus Dashboard Orchestrator の設定をサイトと同期させる必要があります。
- バックアップの作成時に管理されていたサイトが Nexus ダッシュボードに存在しない場合、復元は失敗します。
- バックアップ後にサイトのステータス（管理対象と非管理対象）を変更していて、サイトが Nexus ダッシュボードにまだ存在している場合、ステータスはバックアップ時の状態に復元されます。

古いローカルバックアップのダウンロードとインポート

3.4(1) より前のリリースでは、オーケストレータのローカルディスクでの設定バックアップの作成がサポートされていました。リリース 3.4(1) 以降にアップグレードする前に、ローカルバックアップをダウンロードしておくことを推奨します。ただし、ローカルバックアップはアップグレード後も引き続きダウンロードできます。

アップグレード後に古いバックアップをダウンロードすることはできますが、UI で直接バックアップを復元することはできません。このセクションでは、このようなバックアップを Orchestrator GUI からローカルマシンにダウンロードし、今度はリモートロケーションを使用して Nexus Dashboard Orchestrator GUI に再インポートする方法について説明します。

始める前に

次の設定が済んでいる必要があります。

- リリース 3.3(1) 以前からリリース 3.4(1) 以降にアップグレードされていること。新しいリリースでは、ローカルバックアップはサポートされなくなりました。
- [バックアップのリモート ロケーションの設定 \(4 ページ\)](#) の説明に従って、バックアップのためのリモート ロケーションが追加されていること。

手順

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 左側のナビゲーションメニューで、**[操作 (Operations)] > [バックアップと復元 (Backups & Restore)]** を選択します。

ステップ 3 メインウィンドウで、ダウンロードするバックアップの隣のアクション (...) アイコンをクリックし、**[ダウンロード (Download)]** を選択します。

これにより、バックアップファイルがシステムにダウンロードされます。

ステップ 4 Nexus Dashboard Orchestrator GUI でダウンロードしたバックアップを削除します。

以前のバージョンから既存のローカルバックアップを削除せずにバックアップを再インポートしようとすると、同じ名前のバックアップファイルがすでに存在するため、アップロードが失敗します。

ダウンロードしたバックアップを削除するには、バックアップの横にあるアクション (...) メニューをクリックし、**[削除 (Delete)]** を選択します。

ステップ 5 バックアップをリモートの場所にインポートします。

[バックアップのアップロード \(5 ページ\)](#) に記載されているように、リモート ロケーションを使用してダウンロードしたバックアップ ファイルを Nexus Dashboard Orchestrator に再アップロードします。

バックアップのリモート ロケーションの設定

このセクションでは、設定バックアップをエクスポートできる Nexus Dashboard Orchestrator のリモート ロケーションの設定方法を説明します。

手順

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 左側のナビゲーション ペインで、**[操作 (Operations)] > [リモート ロケーション (Remote Location)]** を選択します。

ステップ 3 メインウィンドウの右上隅で、**[リモート ロケーションの追加 (Add Remote Location)]** をクリックします。

[新規リモート ロケーションの追加 (Add New Remote Location)] 画面が表示されます。

ステップ4 リモート ロケーションの名前と説明 (任意) を入力します。

現在、2つのプロトコルが設定バックアップのリモート エクスポートに対してサポートされています。

- SCP
- ステップ

(注)

SCPは Windows 以外のサーバーでのみサポートされます。リモートロケーションが Windows サーバーの場合は、SFTP プロトコルを使用する必要があります。

ステップ5 リモート サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。

[**プロトコル (Protocol)**] セクションに基づいて、指定するサーバーでは SCP または SFTP 接続を許可する必要があります。

ステップ6 バックアップを保証するリモート サーバーのディレクトリにフルパスを指定します。

パスの先頭にはスラッシュ (/) 文字を使用し、ピリオド (.) とバックスラッシュ (\) を含むことはできません。例: `/backups/multisite`

(注)

ディレクトリは、リモート サーバにすでに存在しなければなりません。

ステップ7 リモート サーバに接続するために使用するポートを指定します。

デフォルトで、ポートは 22 に設定されます。

ステップ8 リモート サーバに接続するときに使用される認証タイプを指定します。

次の2つの認証方式のうちの1つを使用して設定できます。

- パスワード—リモート サーバにログインするために使用されるユーザ名とパスワードを指定します。
- SSH プライベート ファイル—ユーザ名とリモート サーバにログインするために使用される SSH キー/パスワードのペアを指定します。

ステップ9 [保存 (Save)] を使用して、リモート サーバを追加します。

バックアップのアップロード

ここでは、以前にダウンロードした既存の設定バックアップをアップロードし、Nexus Dashboard Orchestratorで設定されたリモートロケーションのいずれかにインポートする方法について説明します

始める前に

次の設定が済んでいる必要があります。

- [バックアップの作成 \(6 ページ\)](#) および [バックアップのダウンロード \(8 ページ\)](#) の説明に従って、設定のバックアップを作成されていること。

リリース 3.4(1)以降で作成したバックアップなど、バックアップがすでにリモートロケーションにある場合は、ローカルマシンにダウンロードして、別のリモートロケーションにアップロードできます。

- [バックアップのリモートロケーションの設定 \(4 ページ\)](#) の説明に従って、バックアップのためのリモートロケーションが追加されていること。

手順

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 左側のナビゲーションペインで、**[操作 (Operations)] > [バックアップと復元 (Backups & Restore)]** を選択します。

ステップ 3 メインペインで、**[アップロード (Upload)]** をクリックします。

ステップ 4 開いた **[ファイルからのアップロード (Upload from file)]** ウィンドウで、**[ファイルを選択 (Select File)]** を選択して、インポートするバックアップファイルを選択します。

バックアップをアップロードすると、**[バックアップ (Backups)]** ページに表示されるバックアップのリストに追加されます。

ステップ 5 **[リモートロケーション (Remote location)]** ドロップダウンメニューから、リモートロケーションを選択します。

ステップ 6 (オプション) リモートロケーションのパスを更新します。

リモートバックアップのロケーションを作成するときに設定したリモートサーバ上のターゲットディレクトリが、**[リモートパス (Remote Path)]** フィールドに表示されます。

パスにはサブディレクトリを追加することができます。ただし、ディレクトリはデフォルトの設定済みパスの下にある必要があり、すでにリモートサーバで作成されている必要があります。

ステップ 7 **[アップロード (Upload)]** をクリックしてファイルをインポートします。

バックアップのインポートは、**[バックアップ (Backups)]** ページに表示されたバックアップのリストにそれを追加します。

バックアップは NDO UI に表示されますが、リモートサーバにのみ存在することに注意してください。

バックアップの作成

ここでは、Nexus Dashboard Orchestrator 設定の新しいバックアップを作成する方法について説明します。

始める前に

[バックアップのリモートロケーションの設定 \(4 ページ\)](#) の説明に従って、最初にリモートロケーションを追加する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 バックアップを新規作成します。

- a) 左側のナビゲーションペインで、**[操作 (Operations)] > [バックアップと復元 (Backups & Restore)]** を選択します。
- b) メイン ウィンドウ ペインで、**[新規バックアップ (New Backup)]** をクリックします。

[新規バックアップ (New Backup)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 バックアップ情報を指定します。

- a) バックアップの **[名前 (Name)]** とオプションの **[メモ (Notes)]** を指定します。
名前には、最大 10 文字の英数字を使用できますが、スペースまたはアンダースコア () は使用できません。
- b) **[リモートロケーション (Remote location)]** ドロップダウンから、バックアップ用に設定したリモートロケーションを選択します。
- c) **[リモートパス (Remote Path)]** では、デフォルトのターゲットディレクトリのままにするか、またはパスにサブディレクトリを追加することができます。
ディレクトリはデフォルトの設定済みパスの下にある必要があります、すでにリモートサーバーで作成されている必要があることに注意してください。
- d) **[保存 (Save)]** をクリックして、バックアップを作成します。

バックアップの復元

このセクションでは、Orchestrator 設定を前の状態に復元する方法について説明します。

始める前に

バックアップアクションを復元すると、Nexus Dashboard Orchestrator でのデータベースは復元されますが、各サイトのコントローラデータベースは変更されません。したがって、Nexus Dashboard Orchestrator と各サイトのポリシーが食い違う可能性を避けるため、Nexus Dashboard Orchestrator データベースを復元した後は、既存のスキーマを再展開する必要があります。

特定の構成の不一致とそれぞれに関連する望ましい復元手順の詳細は、[バックアップと復元に関するガイドライン \(1 ページ\)](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 必要に応じて、既存のポリシーの展開を解除します。

バックアップが作成されたときから現在の設定までに、設定に新しいオブジェクトまたはポリシーが追加されている場合は、この手順を実行することをお勧めします。追加情報については、[バックアップと復元に関するガイドライン（1 ページ）](#) を参照してください。

ステップ 3 左側のナビゲーションメニューで、**[操作 (Operations)] > [バックアップと復元 (Backups & Restore)]** を選択します。

ステップ 4 メイン ウィンドウで、復元するバックアップの隣のアクション (...) アイコンをクリックし、**[このバックアップにロールバック (Rollback to this backup)]** を選択します。

選択したバックアップのバージョンが、実行中の Nexus Dashboard Orchestrator のバージョンと異なる場合、ロールバックが原因で、バックアップされたバージョンには存在しない機能が削除される可能性があります。

ステップ 5 **[はい (Yes)]** をクリックして、選択したバックアップを復元することを確認します。

[はい (Yes)] をクリックすると、システムは現在のセッションを終了して、ユーザはログアウトされます。

(注)

設定の復元プロセス中に複数のサービスが再起動されます。その結果、復元された設定が NDO GUI に正しく反映されるまでに最大 10 分の遅延が発生することがあります。

ステップ 6 必要に応じて、設定を再展開します。

復元された設定を APIC サイトと同期する際には、この手順を実行することをお勧めします。追加のコンテキストは、[バックアップと復元に関するガイドライン（1 ページ）](#) にあります。

バックアップのダウンロード

ここでは、Nexus Dashboard Orchestrator からバックアップをダウンロードする方法について説明します。

始める前に

手順

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 左側のナビゲーションメニューで、**[操作 (Operations)] > [バックアップと復元 (Backups & Restore)]** を選択します。

ステップ 3 メインウィンドウで、ダウンロードするバックアップの隣のアクション (...) アイコンをクリックし、**[ダウンロード (Download)]** を選択します。

これにより `msc-backups-<タイムスタンプ>.tar.gz` 形式でシステムにバックアップファイルがダウンロードされます。その後、ファイルを抽出してその内容を表示することができます。

バックアップ スケジューラ

ここでは、定期的に完全な設定バックアップを実行するバックアップスケジューラを有効または無効にする方法について説明します。

始める前に

[バックアップのリモートロケーションの設定 \(4 ページ\)](#) の説明に従って、バックアップのためのリモートロケーションを追加してある必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 左側のナビゲーションメニューで、**[操作 (Operations)] > [バックアップと復元 (Backups & Restore)]** を選択します。

ステップ 3 メインペインの右上にある **[スケジューラ (Scheduler)]** をクリックします。

[バックアップ スケジューラ設定 (Backup Scheduler Settings)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 バックアップ スケジューラをセットアップします。

- [スケジューラの有効化 (Enable Scheduler)]** チェックボックスをオンにします。
- [開始日の選択 (Select Start Date)]** フィールドに、スケジューラを開始する日を指定します。
- [時間の選択 (Select Time)]** フィールドに、スケジューラを開始する時刻を入力します。
- [頻度の選択 (Select Frequency)]** ドロップダウンから、バックアップを実行する頻度を選択します。
- [リモートロケーション (Remote Location)]** ドロップダウンから、バックアップを保存する場所を選択します。
- (オプション) **[リモートパス (Remote Path)]** フィールドで、バックアップが保存されるリモートロケーションのパスを更新します。

リモートバックアップのロケーションを作成するときに設定したリモートサーバ上のターゲットディレクトリが、**[リモートパス (Remote Path)]** フィールドに表示されます。

パスにはサブディレクトリを追加することができます。ただし、ディレクトリはデフォルトの設定済みパスの下にある必要があり、すでにリモートサーバで作成されている必要があります。

g) [OK] をクリックして終了します。

ステップ 5 バックアップスケジューラを無効にする場合は、上記の手順で[スケジューラの有効化 (Enable Scheduler)]
チェックボックスをオフにします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。